

稲作管理情報 (間断かん水・草刈り)

令和5年6月 日
高岡市農業協同組合
高岡農林振興センター

○中干し後は、「間断かん水」を行い、太い充実した茎を育てましょう。

○カメムシ対策のため、草刈りを徹底しましょう。

1 水稻の生育状況

・稲の生育は平年よりやや遅くなっていますが、十分に茎数が確保されています。

品種		草丈 cm	茎数		葉令	葉色	田植日
			本/株	本/m ²			
てんたかく (早生)	本年	29.0	14.7	314	8.0	4.4	5/3
	昨年	28.9	18.0	379	8.4	4.2	4/30
	平年	31.6	19.5	390	8.5	4.4	5/3
コシヒカリ (中生)	本年	29.5	11.0	224	6.5	4.2	5/14
	昨年	26.1	10.7	224	6.6	4.2	5/13
	平年	28.3	11.2	227	6.8	4.3	5/12
てんこもり (晩生)	本年	27.6	17.7	350	8.0	4.5	5/2
	昨年	25.4	15.0	456	8.9	4.5	4/30
	平年	26.9	11.2	368	8.2	4.5	5/5

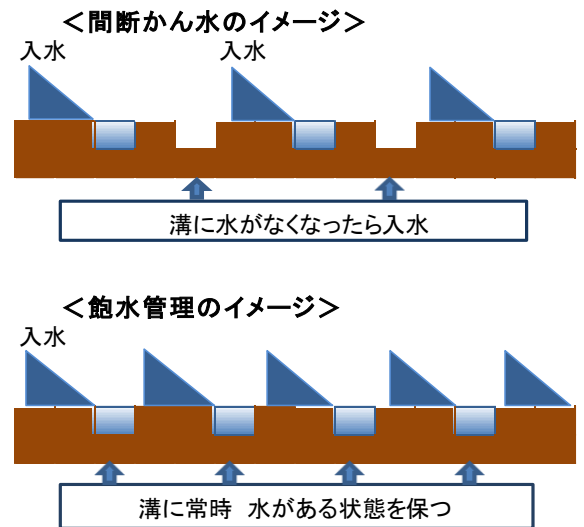
※JA 高岡管内生育調査ほ 6/6 現在

営農記録ノートを活用しましょう

- ・てんたかくの穂肥・防除、畦畔の草刈りについては、「営農記録ノート」P32～34を確認し、作業を行ってください。
- ・農作業を行ったら、P35の「農作業のあしあと」にしっかりと記録しておきましょう。

2 中干し後の水管理 ～中干し後は間断かん水を行いましょ！～

- ・中干しは、ほ場中央部でくるぶしが軽く沈む程度まで行いましょう。
- ・中干し後は、間断かん水を行い、幼穂形成期頃（コシヒカリは7月10日頃）までに「足跡の深さ3cm程度」まで田面を固めましょう。間断かん水中は、乾かしすぎないように注意しましょう。
- ・幼穂形成期頃（コシヒカリは7月10日頃）から出穂期は、最も多くの水分が必要となりますので、足跡に水が残る程度の飽水管理を行いましょ。



3 カメムシ対策 ～畦畔等の草刈りでカメムシの生息場所を減らしましょ～

(1) 畦畔等の草刈り

- ・7月1日～10日に畦畔や雑草地などの草刈りを行い、その後もイネ科雑草の穂が出ないように草刈りを行いましょ。

草刈り運動期間	:	7月1日(土)～10日(月)
県下一斉草刈り日	:	7月1日(土)～2日(日)

(2) 麦の刈取あとほ場の管理

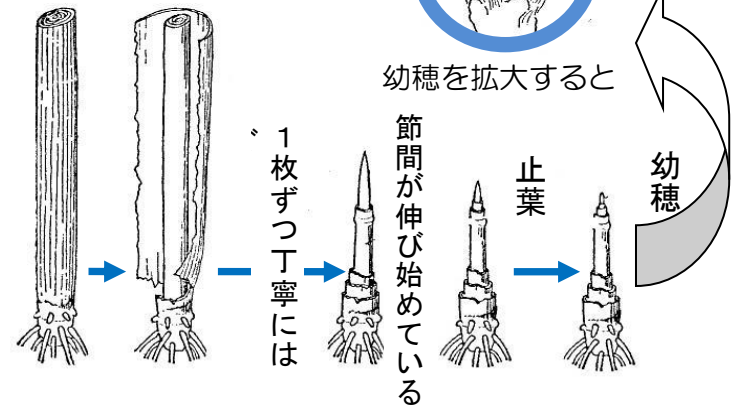
- ・麦の収穫後、放置しておくとも、雑草が発生しカメムシの生息地となるため、積極的に緑肥等を作付けしましょ。
- ・保全管理とする場合でも、耕起を行い、雑草を土中に埋めましょ。また、その後も雑草が繁茂しないよう管理を行いましょ。

4 「てんたかく」の穂肥 ～必ず幼穂長を確認しましょう！～

(1) 基肥一発肥料(Jコート早生専用)の場合

- ・多収目的の追加穂肥は、倒伏を助長するので原則、追肥はしないでください。
- ・ただし、6月末になっても葉色が極端に薄い場合(4.0未満のとき)は、速やかに追肥3号を7kg/10a程度施用しましょう。

幼穂長の確認方法



(2) 分施肥体系の場合

- ・1回目の穂肥は幼穂長1mmの時期に遅れずに施用しましょう。
- ・2回目は1回目の10日後に下の表を目安に施用してください。

表 土壌区別の施肥量の目安(分施)

	施用時期	追肥3号 (kg/10a)		
		砂壤土	壤土(洪積含む)	粘質土
1回目	幼穂長が1mm 葉色(葉色版)4.0~4.5	10	10	10
2回目	1回目から10日後	15	12	10

- ・葉色が濃い(4.5以上)かつ茎数過剰(30本/株)の場合
⇒1回目穂肥を2~3日遅らせましょう
- ・砂壤土で葉色が薄い(4.0未満)場合
⇒1回目穂肥に追肥3号を13kg/10a程度施用しましょう

5 紋枯病の防除(随時防除としての対策) ～7月上旬に発生状況を確認しましょう～

- ・前年発生が多かったほ場や過繁茂のほ場では紋枯病が発生しやすいため、発生が見られたら、随時防除を実施しましょう。

粉剤の場合は・・・ モンカットファイン粉剤 20DL 4kg/10a
使用時期：収穫14日前まで(早生穂ばらみ期)

粒剤の場合は・・・ モンガリット1キロ粒剤 1~1.3kg/10a
使用時期：収穫45日前まで(出穂2~3週間前に遅れずに散布する)

～農作業中の事故防止のため、熱中症対策をしましょう～

- ①日中の気温の高い時間帯を外して作業を行う。
- ②こまめな休憩、水分・塩分補給を行う。
- ③できるだけ複数名で作業を行い、体調に異常がないか確認し合う。

